は尙色相を繼續すべし

(實驗II) 分離鑑識法

可檢物を酸性としエーテルにて浸出す。浸出物中先ツクルクミン及ヘマトキシリンの鑑識を行ふべし即ち浸出後のエーテルの一部を蒸發濃厚とし之を濾紙片に浸潤せしめ次の試験を行ふ

(1) 濾紙片に強鹽酸の一滴を浸出す

石竹色を呈せばヘマトキシリンの存在を示す

(2) 他の一片に鹽酸及硼酸の混液を濕出す

赤色を呈ばセクルクミンの存在を示す

(3) 他の一片に稀薄アンモニア水を濕出す

石竹紅色を呈する時はクリゾファン酸又はフェノルフタレインの存在或は兩者共存を示す

次ぎにフェノルフタレインを鑑識するには上記のエーテル溶液の一部を試験管に採りエーテルを驅逐し之に少量の亞鉛粉末及 NaOH の苛性ソーダ溶液の $\frac{1}{10}$ を加へ然る後赤色全く消失する迄煮沸せしめ次いで溶液を冷却す此操作によりクリゾファン酸は已に記載したるが如く還元せられて黄色となりフェノルフタレインは亦還元せられてフタリンに變じ無色となり殘留すべし

此アルカリ溶液は水にて稀釋するか又は過酸化水素の $\frac{1}{10}$ 滴を加ふる時はクリゾファン酸に特有の櫻實紅色を現出すべし然るにフタリンは此際酸化するの機能なきが故に此際無色に留まる (終)

○メチールアルコホルの新檢出法(呈色反應)

Chr. D. Manzoff. Sofia: A color test for the determination of Methyl alcohol:

(Chem. Abstr. Vol. 8, N. 13 July 10, 1914)

クリスト、デー、マンツォフ著

田中康邦譯

ニトロメタン、アムモニア及び少量のワニリンの混合物は常温に於ては無色なれども、温むるときは赤色化し、温度を高むるに従ひ赤色は濃厚となり、冷却すれば漸次減色し常温に達すれば全く無色となる、即ち熱すれば赤色を現出し、冷却すれば褪色す

ニトロエタンに於ては同様に取扱ふも熱して僅かに黄白色を現はすのみに過ぎず、而してニトロメタンの極少量も尙よく検出し得るが故に著者は此の反應を應用して、變性酒精中のメチルアルコールを検出するを得たり

先づアルコールの二百ccと濃磷酸の五ccとの混合物を蒸餾し最初の溜出液十ccを取りて内容六十ccのコルベンに容れ五gの赤燐を加へ次に粉碎せる二十gの沃度を少しづつ附加し、還流冷却器を連絡して水浴上に低温度に二十分間温めたる後蒸餾して得たる餾液に細粉せる硝酸銀の三gを附加して再び蒸餾すべし、最初に餾出する五滴を取りアムモニア水の同量と混じ更に〇・〇一gのワニリンを加ふべし、此の混合物は常温に於ては無色なれども熱すれば赤色化し、温度を高むるに従ひその色は漸次濃厚となり、冷却するときは減色し始め常温に達すれば無色となる

此の檢出法に於てはニトロエタンの十萬分中僅かにニトロメタンの一分を存するも尙はよく上述の反應を呈するを得べし

著者は更に進むで研究せる結果ワニリンの代りに他の芳香族アルデヒード及び脂肪族アルデヒードを代用するときは上述の反應を呈することなく、只だ例外としてパラヒドロオキシベンツアルデ

ヒードを使用せるときのみは常温に於ては無色なれども温むるときは橙赤色を現はすを發見するを得たり (Z. Nahr.-genussm. 27. 469-470.)

○燐寸中の黃燐檢出法

John Kohler: Methode fo Showing the presence of yellow Phosphorus in

Matches: (chemicalabstracts, Vol. 8 No. 13. July 10 1914.)

ジョン、コーラー 著

田 中 康 邦 譯

燐寸中の黃燐檢出法に二種あり、兩者共に乳鉢内に二グラム許りの燐寸頭を入れ

(I) 先づ揮發及び點火に因りて燐の消耗するを防ぐ爲めに二十ccの水を附加して、よく研磨したる後、半リットル入りの瓶に移し、二十乃至三十cc許りの水を以て乳鉢を洗ひ、其の洗液は瓶に加へ、次に醋酸鉛の飽和溶液即ち $Pb(CH_3COO)_2$ を同容の二%醋酸に溶解せるもの、五十ccを加へて密栓し、十五分間よく振盪したる後二%の鹽化金溶液に浸して濾紙間に壓搾せる幅二cm許りの濾紙片を瓶の首部に懸垂して瓶の側壁及び液に觸れざらしむべし

若し此の紙片の變色せざるときは檢體中に黃燐の存在せざりしを證するものなり

(II) 乳棒にて燐寸頭を粉碎し十g許りの砂を混じ、次に四鹽化炭素を加へてよく混和したる後、還流冷却器を連ねて水浴上に裝置せる百cc入りのコルベン内に移し、十五分間溫浸し、濾過すべし、此のコルベン内の殘渣は十ccの四鹽化炭素を以て、よく洗滌して上記濾液と混じ、次に此の濾液